

(3) 中学校における確かな成長を促す職場体験活動の推進

生徒が伸びる職場体験活動を！

3年間を見通した事前学習・事後学習の工夫・充実

コラム 宮城県仙台市では市内の全中学校で3日以上職場体験を実施しています。仙台市教育委員会が職場体験活動に参加した生徒に対して、「職場体験を経てもっと身に付けたい能力」について意識調査を実施したところ、「教科の学力」が2年連続で最も多く挙げられました。職場体験は、学ぶ意欲の醸成を高め、学習意欲を向上させる上でも有効な教育活動であると考えられます。

Q. 今回の職場体験活動を通して、自分がこれからは身に付けなければならない力や能力は次のどれだと考えましたか。最もあてはまるものをひとつ選び答えなさい。

(1)教科の学力	(5)人とかかわる力やコミュニケーション能力	礼儀や言葉遣い、時間を守るなどの基本的マナー
(2)健康と体力	(6)特になかった	精神力(我慢できる力など)
(3)精神力(我慢できる力など)	(7)その他	
(4)礼儀や言葉遣い、時間を守るなどの基本的マナー		

健康と体力 18%
教科の学力 25%
人とかかわる力やコミュニケーション能力 19%
精神力(我慢できる力など) 19%
(平成20年度調査結果)

はじめに キャリア教育の効果的な導入のために、小学校での取組を把握しよう!

■ 校区の小中学校からの情報収集、1年生からの聞き取りなど

小学校での活動例

- 1/2成人式を間ごう ～大人になるっていいね～ <4年>
- 写真展から社会をのぞこう ～仕事の意味を探ろう～ <5年>
- マイグッドライフ ～夢や希望をもち、努力すること～ <6年>

事前学習 例) 中学校1年生

将来の夢や職業、働くことなど、自分の生き方について考える

取組内容例

- 自分の生き方を考えよう
 - ・職業シナシステストなどを通じた自己の興味・関心の理解の深化
 - ・職業人講話(保護者や地域の人々)
- 職業について考えよう
 - ・職業調べ
 - ・家族に「働くこと」についてインタビュー

Point 具体的な活動を通して、身近な人々の職業や生き方に触れ、自分の将来や仕事を考えることができるようにすることが重要です。

直前の指導 例) 中学校2年生

職場体験活動のねらいを理解し、自分の課題を明らかにする

取組内容例

- これまでの学習の振り返りと体験活動のねらいの確認
- 体験内容の調査、事前訪問
- 体験先への連絡や説明会によるねらいの共有
- マナーや緊急対応等に関する確認
- 体験のまとめ方・事後学習の準備

Point ねらいや課題を十分に理解させることが大切です。生徒個々の興味・関心と職場での体験内容を踏まえ、教師が併走し、体験先を決定するのが適当でしょう。

職場体験活動 例) 中学校2年生

保護者や体験先と連携し、生徒をしっかりと見守り、かかわろう

仕事内容例(販売業)と生徒の変容

事前の1日目 ○あいさつ、自己紹介、社内見学
●緊張、不安、意欲

仕事を覚える2日目 ○品出し、清掃、接客、レジ確認
●仕事の流れが分かる
●高学年の大人の立場等が理解できる

仕事に慣れる3日目 ○ポップの作成、販売、店内放送
●分からないことが聞けるようになる
●自分から進んで行動し、役割を果たすことができる

前職工場の4日目 ●つまずき、失敗、新たな発見

活動の5日目 ○体験先の思いを踏まえた主体的な活動
●自分や大人を客観的に見つめる
●達成感を覚える

Point 保護者や体験先と連携し、生徒をしっかりと見守り、かかわることが重要です。そのためには、体験先の方々に期待や意見を伝え、生徒への接し方、体験のポイントなど、共通理解と情報共有が肝要です。教師は、体験先を訪問し、生徒の変化を観察し、不安なことや困ったこと等を聞くなど、見守り、励ますことが大切です。

充実した職場体験活動のために

職場体験活動を一過性のイベントにすることなく、また、あいさつマナー講習、発表会等の直前の指導・直後の指導にとどまらず、将来の夢や職業、働くことなど、自分の生き方

直後の指導 例) 中学校2年生

職場体験活動を振り返り、その意義を考え、学びを共有する

取組内容例

- 職場体験ノート、記録等のまとめ
- 生徒・保護者・体験先へのアンケート等による多様な評価
- 礼状の作成と事後訪問
- 職場体験報告発表会

Point 体験から学んだことを文章にまとめたり、発表し合ったりすることで、一人一人に働くことや学ぶことの意義を考えさせるとともに、体験や学びを生徒間で共有化することが大切です。

事後学習 例) 中学校3年生

職場体験活動の経験をもとに学習意欲を高め、将来の進路に向けての主体的な学習を進めながら、自分の進路を考え選択していく

取組内容例

- 適性や関心などを生かして進路を考えよう
- ・中学校卒業後の進路の選択・決定
- ・職業生活を考えた将来設計
- 主体的な進路選択への支援

Point 自分なりの将来像を実現するために何をすべきかなど、職場体験活動での学びを自分の将来に向けての学習の意欲付けや進路決定に生かしていくことが重要です。

総合的な学習の時間を生かそう

3年間を見通した工夫の工夫が大切なんだ!

○総合的な学習の時間における探究的な学習の一環として、職場体験活動を位置付けることは、3年間を見通した系統的・発展的なキャリア教育実践の有効な方策のひとつです。

○生徒が自ら職業や自己の将来にかかわる課題を設定し、自らの力で解決に取り組む、その結果として生徒一人一人が自己の生き方を真剣に考える学習活動が展開されることが求められます。

職場体験活動の成果

- 体験を通して、私は仕事が丁寧なことに自信を持ちました。反面、行動が遅いということも分かり、今後少しずつ直していきたいです。いつかは医療関係の仕事に就きたいと思いました。(体験先:病院)
- あいさつや返事は人と人のつながりの始まりです。大型スーパーでの職場体験で、ぼくは、特にあいさつや人の立場に立って考えることの大切さを学ぶことができました。(体験先:量販店)
- 職場で働く人たちの真剣さを見て、「すごい」「かっこいい」と思いました。相手に役立つ、自分に納得できる品物作りをひたむきに取り組む生き方に感動しました。(体験先:手作り家具製造所)

自己理解の深まり
人間関係の深まり
生活環境への肯定的な認識の深まり

改めて、仕事の大変さや厳しさが分かりました。そして、仕事をするのが自分の喜びになることに気付くことができました。これから、自分に与えられた仕事に一生懸命取り組みたいと思います。(体験先:菓子製造販売店)

人とのかかわり、社会の厳しさを改めて感じました。自分の就きたい職業を見つけ、それを実現するためには、勉強をしっかりとやること、自分の行動に責任を持つことが大切だと実感しました。(体験先:美容院)

勤務観・職業観の深まり
生活や学習の基礎づくり